

前頁より続く
 業を実施し有望な漁場を発見した。この結果、試験船を先遣漁船とし、本県内現網漁船が日本沿岸の各府県に率先して出漁し、好成績を収めた。昭和9年農林

対馬暖流開閉調査

この調査は昭和28年より32年まで5ヶ年計画で、国の補助事業として、対馬暖流に關係する南は宮崎県、北は北海道に至る39道道府県の水産試験場が主体となり水研大学の研究者が全面的に援助して実施された。始めての綜合調査で、本県でも試験船兵庫丸が参加し担当海域の調査を遂行し料となった。

深海漁場開発試験

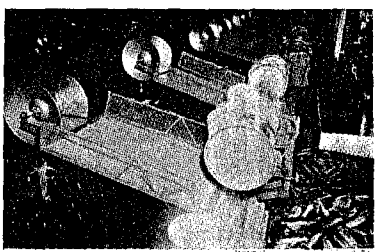
戦後一時資源的に限られていた本県日本海側の底層資源は漁獲努力の強化により次第に減少傾向が見え始めた。そこで未開漁場として残されていた水深300m~500mの大層階級を漁場対象として業者船の操業が増加し、一時は金額的にブワイガニに次ぐ重要資源となり底層漁業の振興に貢献した。

漁海況予報事業の推進

昭和三十三年、山陰東部隣接県とともに漁海況予報研究会が結成され、対馬暖流調査結果の知見およびその連絡体制をもとに、日本海の場合、主要魚種の漁況の速報手察を開始し、以後、速報の迅速化、予報精度の向上を図るため、海洋観測網の充実、海況情報交換組織の拡充などを進めた。昭和三十三年九月の補助事業となり、より広域的、長期的な予報が作成されるようになり現在に至っている。この間多岐の手配が設定され、日本海漁業の科学的な操業を指向として合理的な生産振興の動向について調査研究する。

日本海沖合漁場の開発

日本海沖合に回遊する魚類のクラフトマスを調査、民族を對象として、昭和三十三年、昭和三十六・三十七・三十八・三十九年、昭和四十一年には日本海沖合の企業による漁業試験



魚種イカ釣網による操業の様子

資源調査班 (二名)

毎月定期の海洋観測、漁獲調査を行い漁獲の適地を決定する。漁獲調査および別報告書等により漁獲の適地を決定する。その結果から、毎月全般的な漁況報告とする。

漁場開発班 (二名)

人工魚礁、保護水面、能漁場開発班 (二名) 右写真は自動イカ釣り機による漁業試験

現在の機構と業務内容

総務課

水産試験場の一般事務を管理並びに試験研究調査を行うところ。給与、福利など業種の特長を考慮し、労務の執行に際しては、労務と共同して

資源部

魚産成漁場等の設置と先立って、水質、底質、天然資源の分布等環境調査を行う。漁獲の適地を決定する。漁獲調査および別報告書等により漁獲の適地を決定する。その結果から、毎月全般的な漁況報告とする。

白鳥丸 (五名)

定期的海洋観測のほか別漁獲調査、試験船等海上に調査試験業務および調査船 (白鳥丸、まつかぜ、ちどり) の保守管理ならびに運航を担当する。



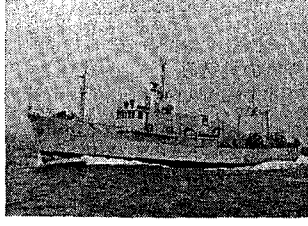
白鳥丸 30.40トン 280PS 主要設備 レーダー、方向探知機、超短波無線電話機、魚群探知機

1. 日本海における漁業に関する試験研究 調査および指導
 2. 但馬地区の水産物の利用加工に関する試験研究 調査ならびに指導
 以上業務を遂行するたため、現在下記の組織で、事業を実施している。

増殖部

かん水班 (七名)
 魚類初期餌料開閉試験
 1. 魚類の稚生技術開発に、その対策について現地指導を行なう。
 2. のり病害対策試験
 指導
 指導
 指導

2. のり病害対策試験
 指導
 指導
 指導



調査船 白鳥丸 (七名) 船体長 11.8メートル、幅 3.7メートル、吃水 1.2メートル、総出力 280馬力、主機関 2基、燃料タンク 2基、淡水タンク 2基、魚群探知機 1基、レーダー 1基、方向探知機 1基、超短波無線電話機 1基、魚群探知機 1基

船舶主機用3-1200馬力/船船補機用3.5-1200馬力

底曳漁業の省力化にたくましい力を！

ヤンマーディーゼル

3ME15形 (15馬力) 3M15形 (15馬力) 2E515形 (15馬力)

ヤンマーディーゼル株式会社

余裕馬力の差が、大漁をお約束します

新発売

● 内海沿岸漁業に最適 M3Q=30馬力 1400回転
 ● 内海沿岸の底引きに最適 3QC=農林15馬力 1200回転

M3Q

ゆたかな人間環境つくり

ヨボロマリディーゼル

久保田鉄工

7月の漁況と海況 (内海側)

●海況

播磨灘 1~2日に実施した海洋観測結果によると東部では上下層の水温差はみられず20.8℃、北西部及び南部では東部10m層とも21.5℃内外を示しているが底層においては19.3℃で±2.0℃、中・西部は表・中層とも21.3℃に対し底層は17.0~17.5℃で±4.0℃各部の平均比較では東部、北西部、南部とも表・中層0.5℃高目、中西部は底層1.0℃低目。
宅水水道 16日の調査結果では東部表層23.3℃、中層22.7℃、底層22.2℃で±2.0℃。下水温差は1.0℃内外、中部は表層23.7℃、中層23.1℃、底層21.5℃内外で±2.0℃、西部は表層23.5℃、中層22.6℃、底層22.0℃で±1.5℃。各部の平均比較では東部の表・中層-1.5℃、逆に底層で+0.8℃、中部表・中層平均並、底層は東部を上回る+1.3℃、西部はやや高目。
大阪湾西部 (淡路島寄) 南部では表層23.5℃、中層22.8℃、底層22.0℃で±1.5℃、北部表層23.0℃、中層22.6℃、底層22.4℃で±0.6℃。各部の平均比較では全層にわたって表・中層で+0.5℃内外、底層で+1.0℃内外それぞれ高目。

●漁況 (概況)

前月に引き続き漁船漁業の盛況期で各地とも活況を呈し明石瀬戸及びその東・西海域では小型曳網でマダコ、エビ、メイトカレイ、アヒナ、メバル、ペラ、五智網でタイ、曳網釣でマルアジ、タチウオ、一本釣でススキ、延縄でカサゴ、メバル、ペラ、刺網でキスなど。友ヶ島水道とその南・北海域では小型底曳網でエビ、タコ、アナゴ、キス、刺網でキス、マルアジ、ペラ、延縄でカサゴ、アナゴ、カサゴ、曳網でタチウオ、一本釣でタコ、アジなど。沼島周辺及び南・西海域では小型底曳網でエビ、アナゴ、キス、エビ、曳網釣でタチウオ、一本釣でヒラアジ、延縄でコヨウ、磯刺網でクルマエビ、エソ、アヒナなど。馬門南・北海域では小型底曳網でエビ、カニ、アカガイ、曳網でサワラ、タチウオ、一本釣でキス、タコ、延縄でハモ、カサゴ、アコオ、五智網でタイ、磯刺網でオコエ、カレイ、メイトカレイ、八田網で豆アジ、小サバ、タコ産地。播磨灘中部海域では流し刺網でサワラ、巾着網でカタクチイワシ、マルアジ、北部では小型底曳網でカニ、エビ、タコ、サコ、カレイなどが主な漁業とその対象魚となっている。

●各地

(注) 以下は1日1隻当りの漁獲量@は1キロ当りの単価円、何隻は操業隻数)

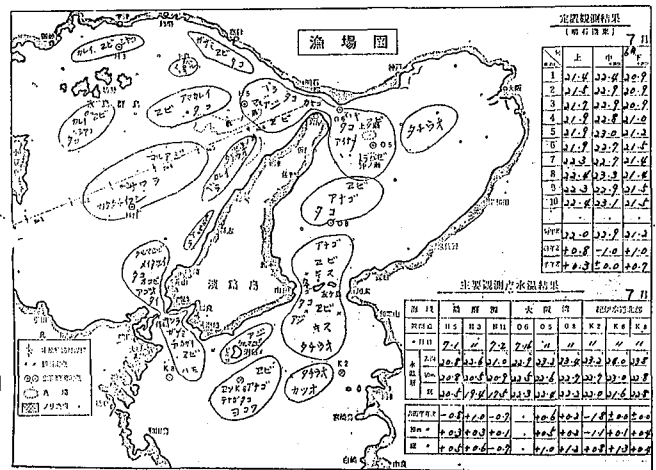
- 明石浦** 小型底曳網メイトカレイ10キロ@1,500~2,300、タコ25キロ@400、アヒナメ5キロ@1,500、メバル5キロ@1,200、エビ10キロ@900、アナゴ5キロ@1,000、40隻。タコ桁曳網65キロ@550、(小)300、25隻。各曳網マルアジ50尾1尾200(目回220g)60隻。タチウオ300尾1尾50、10隻。ススキ一本釣8キロ@3,000(目回1キロ以上)15隻。ペラ延縄10キロ@1,100、2隻。ブンチン漁イシカレイ10キロ@1,200~2,000、タコ5キロ@500、7隻。
- 岩屋** カタクチイワシ船曳網2,000~3,000キロ@30~50、1統。タイ五智網3~5尾、@4,800(目回1.5キロ)10隻。タコ桁曳網55キロ@400、10隻。エビ樽網エビ25キロ@850(小)425、クルマエビ5~6尾@4,000、メイトカレイ2キロ@2,000、30隻。マルアジ曳網50尾1尾160、60隻。ススキ一本釣2~5尾@3,000、20隻。各延縄カサゴ・メバル10キロ@1,000、アナゴ3キロ@500、6隻。ペラ30キロ@900、10隻。キス流刺網20キロ@900、6隻。タコ産地50キロ@680(小)550、4隻。
- 由良** 小型底曳網アナゴ12キロ@800、タコ10キロ@600、シラサエビ8キロ@1,200、キス4キロ@700、その他20キロ@200、60隻。キス流刺網22キロ@800、15隻。磯刺網アマカレイ7キロ@2,200、ペラ13キロ@800、その他7キロ@1,100、20隻。各延縄カサゴ50キロ@700、10隻。アナゴ15キロ@800、カサゴ12キロ@800、タチウオ曳網45キロ@200、40隻。各一本釣タコ8キロ@600、30隻。アジ12キロ@1,100、50隻。突棒アワビ5キロ@1,600、サザエ4キロ@450、4隻。テングサ150キロ@40、13隻。
- 沼島** 小型底曳網カワツエビ8キロ@1,150、小エビ90キロ@180、ウマズラハギ55キロ@50、アナゴ8キロ@450、キス5キロ@450、エソ5キロ@70、チナガダコ5キロ@100、43隻。タチウオ曳網300尾1尾55、5隻。ヒラアジ一本釣13キロ@700(小)500、50隻。ヨコワ延縄20キロ@500、6隻。磯刺網クルマエビ6キロ@4,500、エソ20キロ@60、グチ3キロ@200、25隻。アワビ25キロ@950、3隻。突棒サザエ5キロ@500、タコ3キロ@600(小)500、4隻。
- 福良** 石桁網シラサエビ3キロ@3,000、カワツエビ2キロ@1,200、小エビ35キロ@350、ガザミ20キロ@550、アガヒ10キロ@1,500(ムキ身)雑魚5キロ@330、36隻。各曳網サワラ10キロ@1,200(目回1.5キロ)10隻。タチウオ100キロ@200、120隻。各一本釣キス3キロ@950、10隻。タコ5キロ@400、10隻。ハモ延縄10キロ@1,200、8隻。八田網豆アジ300キロ@150、小サバ200キロ@30、2統。突棒ウニ10箱1箱620、10隻。アワビ15キロ@1,500、サザエ3キロ@600、10隻。タコ産地、60キロ@550、3隻。
- 丸山** タイ五智網10キロ@2,800、8隻。各延縄カサゴ10キロ@1,200、15隻。アコオ5キロ@4,000、5隻。磯刺網オコエ10キロ@2,000、アマカレイ3キロ@1,000、メイトカレイ4キロ@1,100、8隻。タコ産地40キロ@630、7隻。

●本月の特記事項

本年は明石瀬戸及びその東西海域ではマダコの豊漁をみ、明石浦漁協所属船のタコ漕で1日1隻60~70キロの漁獲量を示しているが値段は安値が続いている。またマルアジ曳網釣も比較的好漁であるが好(1日1隻約500尾)不(20尾)漁が激しい。

●今後の見込み

7月中旬~下旬の白鳥丸調査では明石瀬戸とくに神戸市舞子沿岸~明石市二見沖合にかけてウマズラハギの近年にない集中的な魚群分布を示し魚群量も極めて濃密で大型群は体長17cm内外、小型群は10cm内外の二群があり、前月の調査時より5~7cmの成長を示し今後更に内海での成長と合まって本年は豊漁が期待できる。またマダコは大阪湾北西部、明石瀬戸、播磨灘東部海域に広く小ダコが分布しており、漁獲割合が大60%、小40%程度で例年よりかなり多く本月に引き続き豊漁が期待できるが、更には入網時における小ダコの放流を完全に実施し資源の維持を計りたいものである。(水試 岩井)



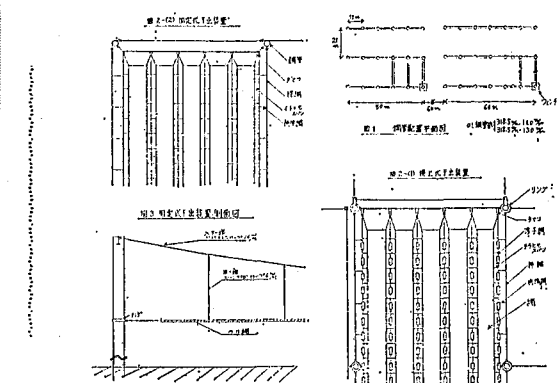
浮流し育苗施設の 開発について

48年度ノリ振興対策事業から

県下の全ノリ養殖圃数の約9割を占める浮流し養殖圃に対する浮流し育苗方式による自給自足のための技術改良および省力化を目的とした県水産課の48年度ノリ振興対策事業の一環として県内海漁産が事業主となり水試、洲本農休水産課、一宮町産業課の指導と一宮町漁協那家支所の協力を以て以下の事業を実施した。その概要をお知らせする。

この施設は、淡路ノリセである。捲上げ式干出装置で知られるノリセの入り口に、捲上げ式干出装置を付設し、この施設による育苗は、10月下旬から11月下旬まで、淡路ノリセンターで陸上採苗した網20枚および那家地先で野外採苗した網を搬送して実施された。この間、水温は21~13℃まで順調に降下した。また、北西の風波の強い日がかなり観察された。

①の通り、一冊ずつつり橋のようにロープで一定水位に固定し、自然の干満を利用し網を下させるものだが、以後網および種単位



生長差およびアオの付着差の原因として、装置に起因するものが認められた。即ち、ロープの伸び縮みや長さが異なるため、ノリの生活はほとんど認められなかった。この状況は捲上げ式に、固定式では五冊単位の内の中間の冊を抜いた場合に特によく認め

られた。この対策として、ハイゼックスのような伸び縮みの比較的少ない資材に交換することや、五冊単位の統一した管理を徹底させた管理様式にすることが可能であると懸念。その他、網管理作業が自由でロープを結んでいたが、この部分のロープの切断がよく認められた。この点は、チェーンなどを用い改良することになった。

以上のように、工事の関係で育苗がなせたり計画の不備な点が認められたが、従来の野外採育苗方式に比較し、水位の調節が簡単にできた。また、種子が有化できた。また、種子の付着が少なかつた。その他この種網から生産されたノリの品質が良いなどの長所が認められた。

本年度は、本施設の管理委員会を設立し、施設の強化と改善を計り、統一した育苗管理を実施して更に有効な施設の利用を計ると共に、新しい浮流し育苗技術の確立を目ざしたい。(水試 山内)

海上電機が皆様に贈る新製品
 小型漁船からレジャーボートに友達が一入りました
 これからの海に是非お供させて下さい
 フィッシュパイロット
 Z-1・マークII
 中型、大型も各種取揃えています
海上電機株式会社
 神戸市生田区明石町32 電話 391-4301

養魚の調餌と造粒は
コウベヒラガのミートチョッパーで

養魚用ミートチョッパーNo.32からNo.72まで各種製作しています。
 又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チョッパーで給餌することもできます。

(御一報次第カタログ贈呈いたします)

ミートチョッパーとプレート、ナイフの専門工場
株式会社 平賀工作所 神戸市長田区水笠通3丁目8
 TEL代表神戸(078)62-1527